

前回検討委員会での意見	修正内容		理由等
	前文を追加 (この制度は、胆振支庁が設置した検討委員会で作成。来年度の試行を経て仕上げていく。)	前文	この報告書の位置づけを明確にする
	制度創設の背景に、これまで地元で行われてきた人づくりの取り組みを追加	1P	これまでの地元の努力があつての火山マイスター制度。突然人づくりを始めるものではないことを明記。
ネーミングが大切。「有珠火山マイスター」の方がわかりやすいのでは。	制度の特徴を追加し、その中に「洞爺湖有珠火山マイスター」の名称の理由を明記	1P	有珠火山は、洞爺カルデラの南壁上に生じた火山であり、有珠火山を正しく知るには、洞爺カルデラを含めた地域全体に学ぶことが必要のため。
	マイスターに期待する役割を明記	2P	マイスターの役割を書かずに、活躍イメージを例示していたため、誤解を生じる可能性があるため
国立公園の規制に関する基礎的知識も養成講座(主催講座)に盛り込むべき。	野外活動に関する基礎的な知識に「関係法令等」を追加	3P	具体的には自然公園法などを例示
素案5頁に、「さらに研鑽実績を積み上げ～火山マイスターの称号授与～」とあるが、火山サポーターが研鑽し実績を積み上げる場はあるのか？	認定までの流れをわかりやすく書き直し。サポーターとマイスターの要件を具体的に記載	5～7P	学びたい全ての人→サポーター→マイスターという流れが分かりづらかったため
火山サポーターの要件である受講経験には、今後の受講経験だけでなく、過去の受講経験も考慮した仕組みとするべき。	修正なし		試行の段階で2過年度(H18,19)の受講経験を配慮する。
主観的な試験で受験者の不満が出ないか心配。試験の透明性を高めるため、点数制の試験も考えられるのではないか。	修正なし		火山マイスターの場合、現時点では、毎年多数の応募者があることは想定されず、機械的な点数制とするより、専門家による審査認定の方がなじむと思われるため
特定の分野のプロフェッショナルからサポート受ける仕組みとしてシニアマイスター(仮称)を位置づける視点もある	将来的な検討の視点に追加	9P	
エコミュージアム推進協議会での将来的な運営についてであるが、火山マイスター制度より広い範囲を活動の対象としているエコミュージアム構想との整合性も考えなければならない	将来的な運営組織については、現時点でエコミュージアムが最も合理的と考えるが、引き続き検討していく課題	15P、17P	運営委員会の場で検討を進める(運営委員会にエコミュージアム推進協議会を加える)
ガイドの申込先などの受け皿がないと火山マイスターの活動は容易ではないのではないか	修正なし		将来的な運営組織の検討の中で検討する。
国有林の保全活用、地権者と制度管理者とのすり合わせも必要。	修正なし		運営委員会の場で連携しながらすすめる
エコミュージアム構想の推進に当たって、エコガイドの検討しているところ。3月頃にはアウトラインできる見込み。このエコガイドと火山マイスター制度は連携が可能。	修正なし		運営委員会の場で連携しながらすすめる(運営委員会にエコミュージアム推進協議会を加える)
今検討している火山マイスター制度は、この地域を対象としているが、将来的には、この制度をほかの地域にも広げ、全道的な人づくり制度となることを期待する。	修正なし		将来的な展開として可能性あり
	20年度の運営体制について明記	P16	本格実施に向けた試行としての20年度の進め方を記載
	用語の解説を追加	P20	用語の統一のため
	検討委員会の検討経緯	P22	